

教科ごとの知識が絡み合う

高校には、中学校とは違って自由選択授業という時間があります。大学と同じように、様々なジャンルの授業を生徒が選んで受講するものです。

自由の森学園高校では1-14講座の自由選択授業が開講されています。韓国・中国・スペイン・ドイツ・フランスなどの外国語や、農業、林業、建築、保育、心理学など総合的なものまで様々な講座があります。

高校3年生の八木田好葉さんが受講している講座は、World English、物理学、批評、政治経済、小論文、自然の6講座。語学と社会科学系、自然科学系までバラエティーに富んでいます。

物理学では主に地球の軌道の発見の過程を学び、「自然」では人と自然の関係性に様々な角度からアプローチします。

高校の授業には

まなぶ

「批評」や「小論文」は、文章を読み、深く議論することをめざしていることです。一般に高校3年生は受験教科を中心に受けるでしょうが、自由の森では、自分の関心の広がりに沿っていろいろなジャンルを学ぶ生徒が多いようです。

彼女に、学んだことを聞くと、それぞれの講座から共通するものを感じとっていると云います。「選択授業では新しい視点に立てる上、多くの授業を通して視野が広がり、いろんな方向から物事を考えることができる。自分の考えや価値観が組み替えられたり、他の情報とつながることで深まったりするのを実感すると、より楽しくなる」

それぞれの授業ノートには、そんなつぶやきがいっぱい書きこまれているとのこと。

「批評でやった世間からの批判の問題と関わってくるね」（政経ノート）、
「あ、小論文と同じだ、多元的なものをつなげる。理性」が必要なのね」（物理ノート）。

このように、特に高校3年生になると、全ての教科の学びがそれぞれの生徒の中でひとつながりのものとして見えてくる人が多いようです。

高校での学びは、進学に必要なものだけではなく、本質的には、大人として、社会の一員として、自らの生き方を見いだす上での土台を形成することではないかと思うのです。小学校時代から12年間、教科に分かれた知識を得、ものごとを考えてきたのですが、やっとそれらが絡み合って自分のあり方や方向性を照らし出しはじめます。

好葉さんは、いま、社会科学と自然科学を総合した学問を志したいと考えているそうです。